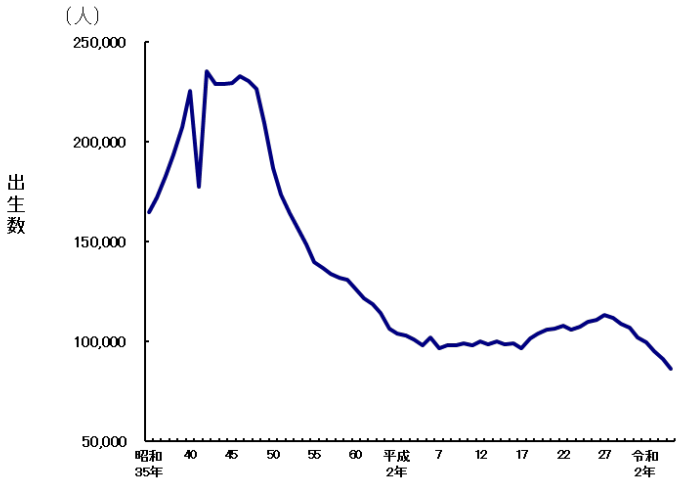
令和５年　東京都人口動態統計年報
（確定数）のあらまし

１　出　生

出生数は 5.2%減少

令和５年の出生数は 86,348 人で、前年の 91,097 人より 4,749 人（5.2%）減少した。人口千人当たりの出生数を表す「出生率」は 6.4 で前年の 6.8 より低下した。
【人口動態統計年報（以下「年報」という。）第１表】
全国の出生率は 6.0 で【年報第５表】、前年の 6.3 より低下した。

図１　出生数の年次推移（東京都）

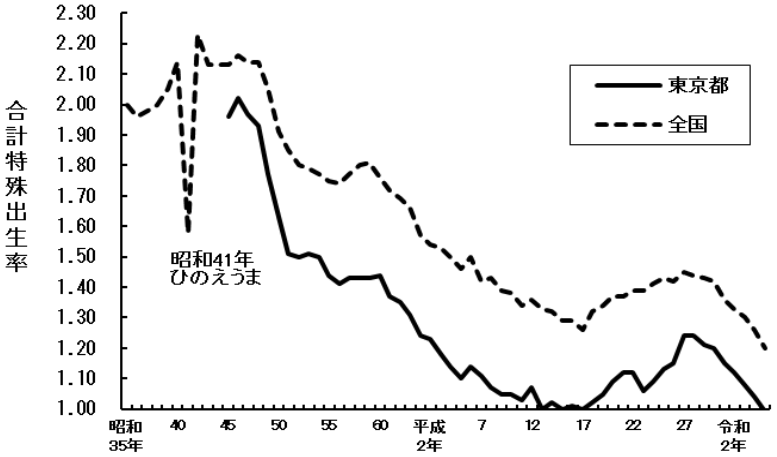


合計特殊出生率は 0.05 ポイント低下

令和５年の合計特殊出生率※ は 0.99 で、前年の 1.04 より 0.05 ポイント低下し、調査開始以来初めて 1.00 を下回った。（年報「調査の概要」の「６　利用上の注意」（３）を参照）【年報第３表】

区市町村別にみると、区部での最高は中央区（1.24）、最低は豊島区（0.85）、市部での最高は稲城市（1.29）、最低は多摩市（0.92）、町村部での最高は小笠原村（1.86）、最低は利島村（出生なし）だった。（別表参照）

図２　合計特殊出生率の年次推移（東京都、全国）



注　昭和 44 年までは、東京都の継続した数値はない。

※　合計特殊出生率
15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。
1 人の女性が仮にその年の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供の数に相当する。
なお、算出に用いた出生数の 15 歳及び 49 歳には、それぞれ 14 歳以下、50 歳以上を含んでいる。

15 歳未満、50 歳以上を除く全ての階級で出生数が減少

出生数を母の年齢（５歳階級）別にみると、15 歳未満、50 歳以上を除く全ての階級で前年より減少した。【年報第６表】

平成 10 年からは 25～29 歳に代わって、30～34 歳の出生数が最多となり、更に、平成 21 年からは 35～39 歳の出生数が 25～29 歳の出生数を上回っている。（図３）

また、30 歳代の出生数は８年連続減少し、40 歳代の出生数も７年連続減少した。

一方、全国と東京都の出生割合を比較すると東京都の 30 歳代及び 40 歳代の出生割合が高くなっている。（表１）

図３　母の年齢別出生数の年次推移（東京都）

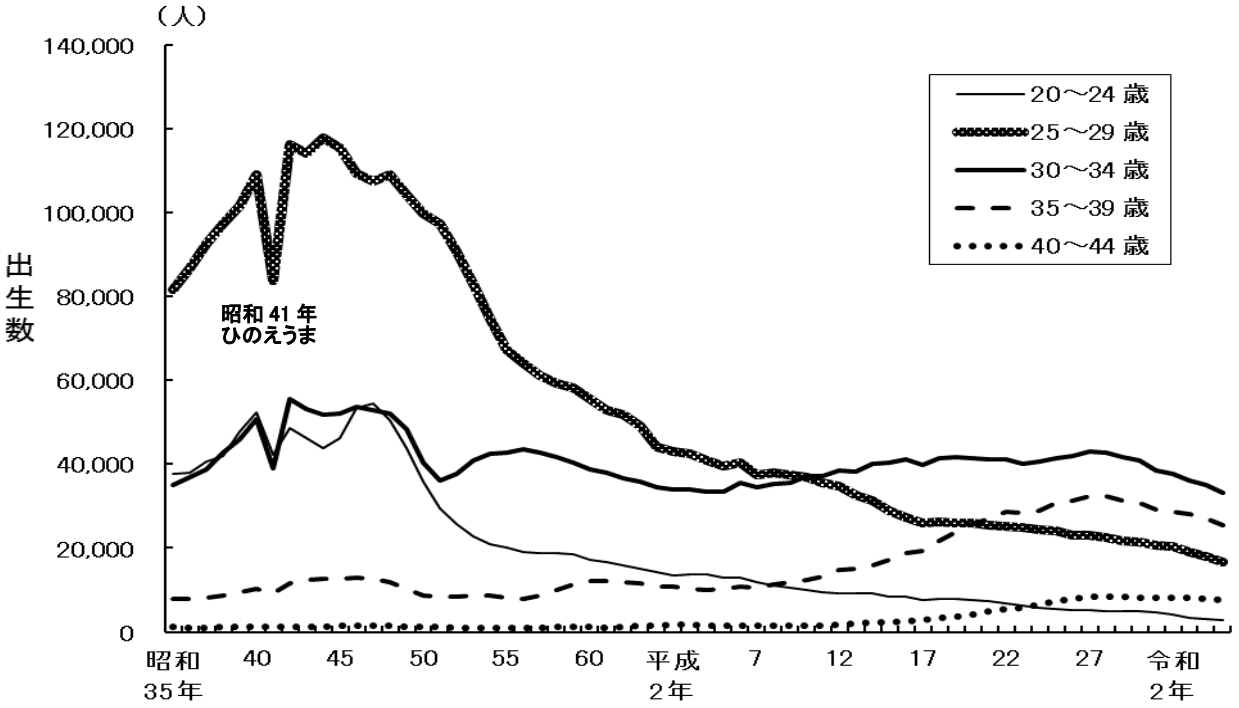


表１　母の年齢別出生数、総数に対する割合

母の年齢	15歳未満	15～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50歳以上	総数
	出生数（人）									
全国	27	4,325	47,195	189,338	265,109	173,523	46,020	1,645	100	727,288※
東京都	3	234	2,701	16,789	33,188	25,464	7,620	324	25	86,348
	総数に対する構成割合（%）							※小数第三位まで表示		
全国	0.004	0.595	6.489	26.033	36.452	23.859	6.328	0.226	0.014	
東京都	0.003	0.271	3.128	19.443	38.435	29.490	8.825	0.375	0.029	

全国･･･「令和５年(2023)人口動態統計（確定数）の概況」第４表－(1)（厚生労働省）

※総数には母の年齢不詳を含む。

２　死　亡

死亡数は 1.5%減少

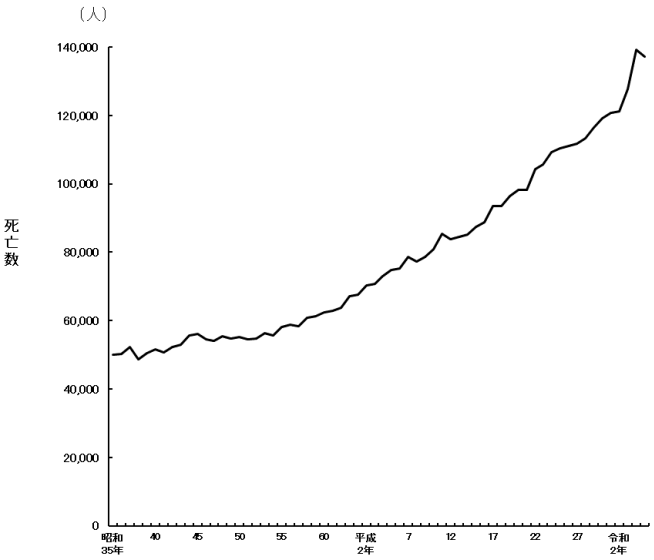
令和５年の死亡数は 137,241 人で、前年の 139,264 人より 2,023 人（1.5%）減少した。人口千人当たりの死亡数を表す「死亡率」は 10.2 で、前年の 10.4 から 0.2 ポイント低下した。【年報第１表】

全国の死亡率は 13.0 で、東京都の方が低い値となっている。【年表第５表】

地域別に死亡率をみると、区部は 9.3 で東京都全体（10.2）より低くなっている。

一方、市部は 10.7、郡部は 20.2、島部は 18.5 で東京都全体（10.2）より高くなっている。【年報第４表】

図４　死亡数の年次推移（東京都）



また、乳児死亡数（生後１年未満の死亡）は 135 人で、前年の 148 人より 13 人（8.8%）減少した。出生千人当たりの乳児死亡数を表す「乳児死亡率」は 1.6 で、前年の 1.6 と同率だった。新生児死亡数（生後４週未満の死亡）は 60 人で前年の 74 人より 14 人（18.9%）減少した。出生千人当たりの新生児死亡数を表す「新生児死亡率」は 0.7 で、前年の 0.8 より低下した。【年報第１表】

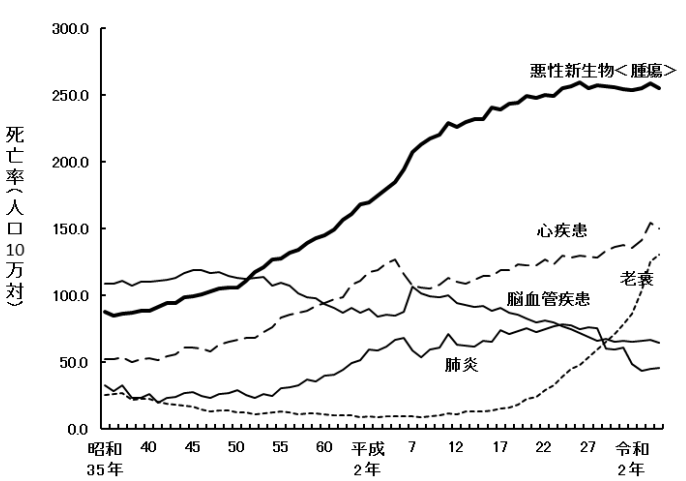
死因別死亡数は「悪性新生物＜腫瘍＞」が第一位

死因別にみると、死因順位の第一位は昭和 52 年以降連続で「悪性新生物＜腫瘍＞」である。「悪性新生物＜腫瘍＞」による死亡者数は 34,276 人（死亡者総数 137,241 人の 25.0%）で、前年の 34,799 人より 523 人（1.5%）減少した。

第二位は「心疾患」（死亡者総数の 14.7%）、第三位は「老衰」（同 12.8%）、第四位は「脳血管疾患」（同 6.3%）、第五位は「肺炎」（同 4.5%）となっている。全国も上記の順位は東京都と同じである。【年報第８表】

「老衰」は平成 12 年以降上昇し、平成 30 年から死因の第３位となった。

図５　主要死因別死亡率の年次推移（東京都）



３　自然増減

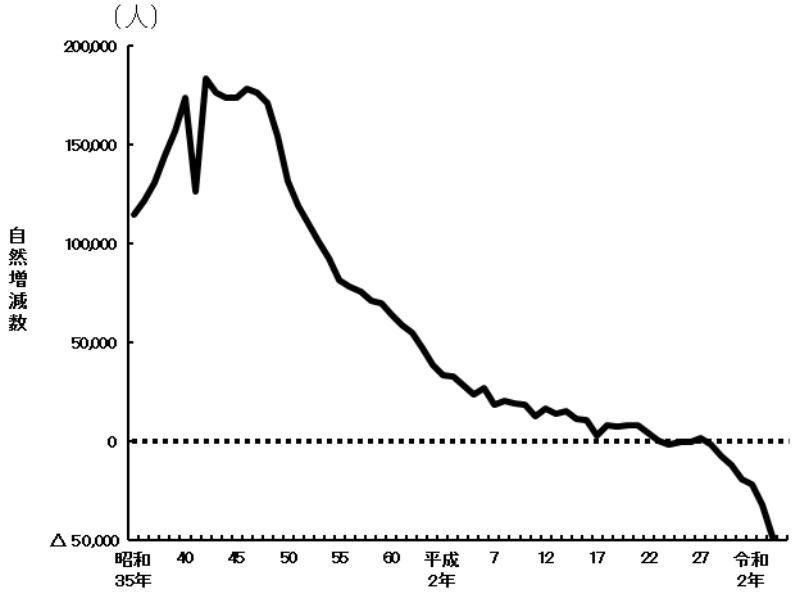
自然増減は８年連続減少

令和５年の自然増減※ 数は△50,893 人で、８年連続の自然減となった。(前年は△48,167 人、前々年は△32,245、３年前は△21,558 人)【年報第２表】

また、人口千人当たりの自然増減数を表す「自然増減率」は△3.8 で、前年の△3.6 より低下した。【年報第１表、第２表】

※ 自然増減
　出生数から死亡数を減じたもの

図６　自然増減数の年次推移（東京都）



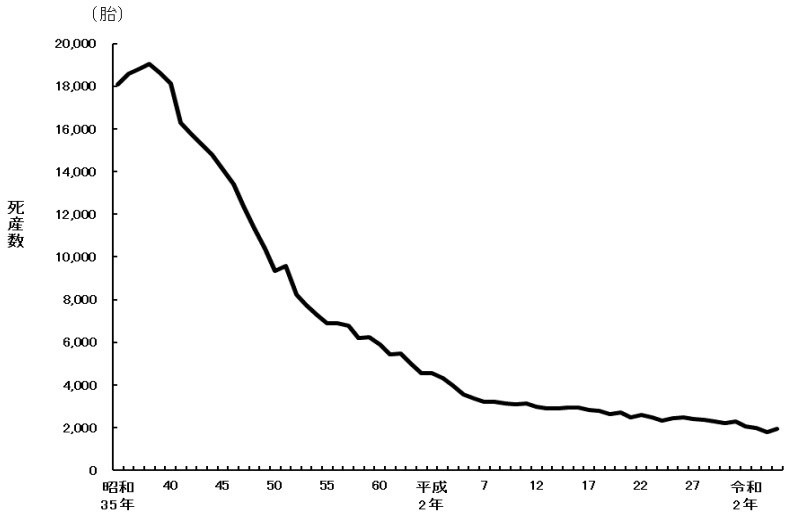
４　死　産

死産数は増加

令和５年の死産数は 1,934 胎で、前年の 1,773 胎より 161 胎 (9.1%) 増加した。自然死産は 799 胎で前年の 812 胎より減少しており、人工死産が 1,135 胎と前年の 961 胎より 174 胎増加した。

また、出産千人当たりの死産児数を表す「死産率」は 21.9 で、前年の 19.1 より上昇した。【年報第１表】

図７　死産数の年次推移（東京都）



５　婚　姻

婚姻件数は減少

令和５年の婚姻件数は 71,774 組で、前年の 75,179 組より 3,405 組（4.5%）減少した。

人口千人当たりの婚姻件数を表す「婚姻率」は 5.3 で、前年の 5.6 より低下した。【年報第１表】

全国の婚姻率は 3.9 で、東京都の方が高い値となっている。

地域別にみると、区部は 5.8 で東京都全体（5.3）より高く、市部は 3.5、郡部は 2.5、島部は 3.5 で東京都全体より低くなっている。【年報第４表】

東京都の平均初婚年齢は夫 32.3 歳（全国：夫 31.1 歳）、妻 30.7 歳（全国：妻 29.7 歳）で、いずれも前年と同数であった。なお、都道府県別では、東京都は夫・妻とも全国で最も高い。（表２）

図８　婚姻件数の年次推移（東京都）

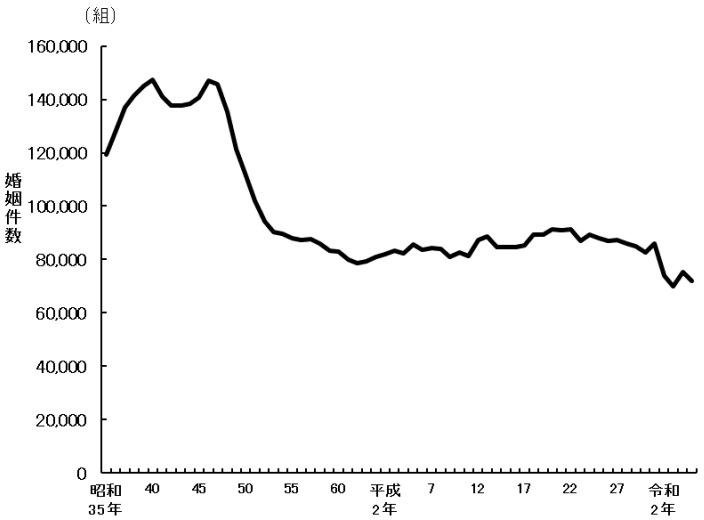


表２　平均初婚年齢、東京都と全国の比較

	令和４年		令和５年	
	夫	妻	夫	妻
全国	31.1	29.7	31.1	29.7
東京都	32.3	30.7	32.3	30.7

出典：「令和５年(2023)人口動態統計（確定数）」婚姻 第９-12 表（厚生労働省）

６　離　婚

離婚件数は増加

令和５年の離婚件数は 20,016 組で、前年の 19,255 組より 761 組（4.0%）増加した。

人口千人当たりの離婚数を表す「離婚率」は 1.49 で、前年の 1.43 より上昇した。【年報第１表】

全国の離婚率は 1.52 で、東京都の方が低い値となっている。

地域別にみると郡部は 1.87、島部は 1.93 で東京都全体 1.49 より高く、区部は 1.46、市部は 1.32 で東京都全体より低くなっている。【年報第４表】

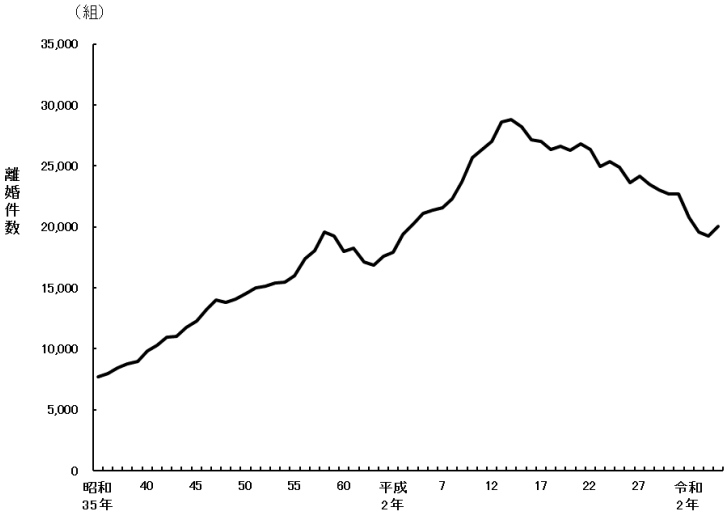



図９　離婚件数の年次推移（東京都）